

フ ク ビ

フリーフロアーシニアスタンダードシステム

施 工 要 領 書

フクビ化学工業株式会社

(目 次)

1. 適用範囲	2
2. 製品概要		
2-1 工法概要	2
3. 材 料		
3-1 材質	3
3-2 床高さ調整範囲	4
3-3 パネル規格	5
4. 現場施工フローチャート	6
5. 施工手順	7
6. 施工検査表	9

1. 適用範囲

本仕様書は二重床床下地「フリーフローア－シニアスタンダードシステム」の工事に適用する。

2. 製品概要

2-1 工法概要

パーティクルボードの床パネルの四隅あるいは四隅の中央部に支持脚を取り付けて、パネルが独立して自立する「脚付パネル工法」です。

この自立した床パネルを捨張合板にて一体化させて仕上材を施工する工法でレベルは床パネルに取り付いている樹脂ナットにボルトをセットし、このボルトを回すことによりレベル調整が可能です。

3. 材 料

3-1 材質

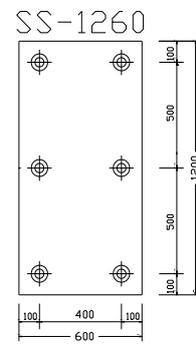
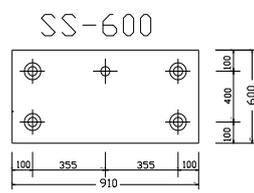
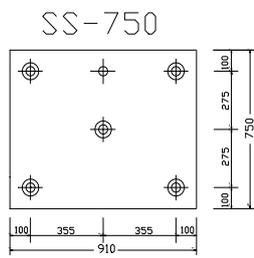
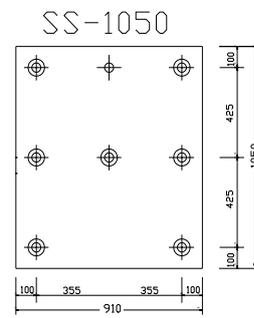
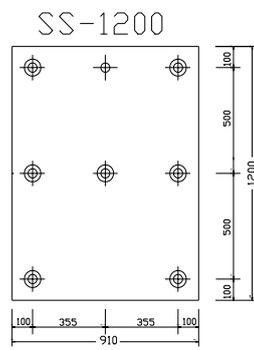
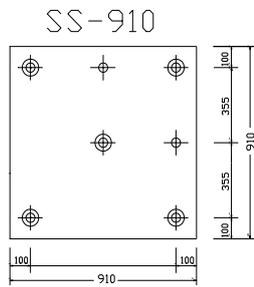
部 材 名		材 質	備 考	
床パネル		パーティクルボード JIS-M18 厚み 20 mm	パネルサイズ 6 種類	
支持脚	K ナット	特殊樹脂	ナットサイズ 3 種類 K15 mm・35 mm・50 mm	
	ボルト	SDG ボルト	特殊樹脂 SBR 製 硬度 70°	ゴム座厚み 15 mm
		SS 赤 ボルト	特殊樹脂 SBR 製 硬度 70°	ゴム座厚み 5 mm 壁際用
SS パット		発泡 P E 緩衝材	K ナット 50 mm 使用時 に壁廻りのパッドに使用	
捨張合板		広葉樹合板 12 mm	別途ご用意ください	

3-2 床高さ調整範囲

SDGボルトの場合		
(スラブ面から床パネルの天端まで)		
Kナット	SDGボルト	床高さH調整範囲
15mm	50mm	50mm~75mm
35mm	50mm	70mm~95mm
	75mm	75mm~120mm
	95mm	95mm~140mm
	115mm	115mm~160mm
	135mm	135mm~180mm
	155mm	155mm~200mm
	175mm	175mm~220mm
	190mm	190mm~235mm
50mm ※L ^o ライバ ^o - 必要	210mmL	210mm~260mm
	235mmL	235mm~285mm
	260mmL	260mm~310mm
	285mmL	285mm~335mm
	310mmL	310mm~360mm
	335mmL	335mm~385mm
	355mmL	355mm~405mm

SS赤ボルトの場合		
(スラブ面から床パネルの天端まで)		
Kナット	SS赤ボルト	床高さH調整範囲
15mm	40mm	40mm~65mm
35mm	40mm	60mm~85mm
	65mm	65mm~110mm
	85mm	85mm~130mm
	105mm	105mm~150mm
	125mm	125mm~170mm
	145mm	145mm~190mm
	165mm	165mm~210mm
	180mm	180mm~225mm
50mm ※L ^o ライバ ^o - 必要	200mmL	200mm~250mm
	225mmL	225mm~275mm
	250mmL	250mm~300mm
	275mmL	275mm~325mm
	300mmL	300mm~350mm
	325mmL	325mm~375mm
	345mmL	345mm~395mm

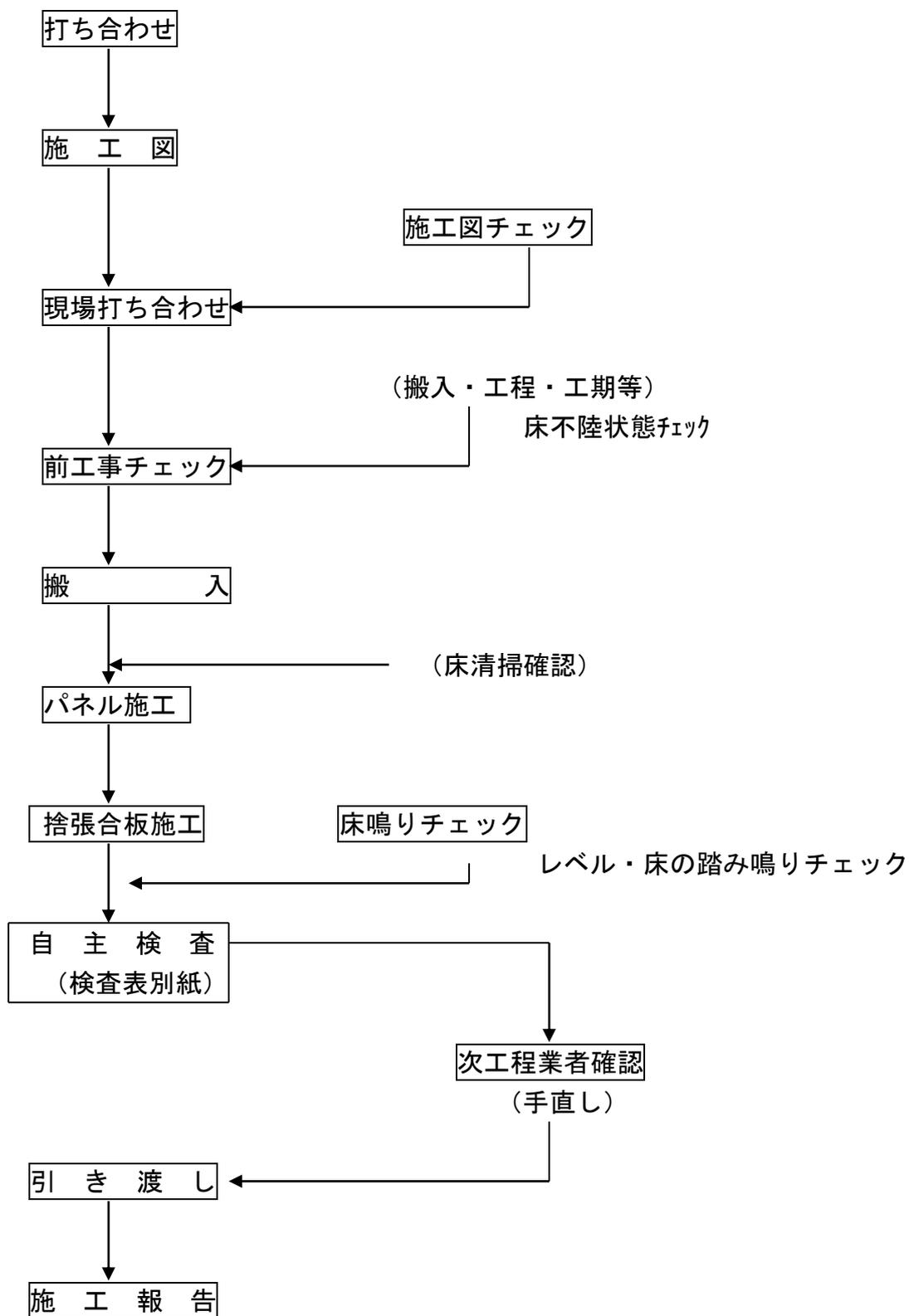
3-3 パネル規格



⊕ 印はナット付

⊖ 印は穴のみ

4. 現場施工フローチャート



5. 施工手順

①コンクリート床面の清掃確認

- ・コンクリート床面を清掃し、極端な凹凸のある場合は修正を依頼する。

②柱角、配管部分の床パネルの切り欠き

- ・立ち上がり配管や出入隅部等の当たる箇所は床パネルを切り欠く。
この時、配管と床パネルの隙間が5mm～10mm程度とれるように切り欠く。切り込みは自在杓または電動丸ノコを使用し、余分な切り込みは避ける。

③補強ナットの増設

- ・床パネルを切り欠いた時や壁廻りの補強を要する箇所にナットを増設する。この時ナット穴は木工ギリ 36φ～38φを使ってあけKナットを取り付ける。ナットと床パネルは「なべ頭ビス 3.5×16」3本以上で固定する。

④ボルトの取り付け

- ・ナットにボルトを取り付ける。補強用には適宜SS赤ボルトを用いる。専用ドライバーで目安高さに合わせボルトを取り付ける。

⑤床パネルの配置

- ・割付け図に従って床パネルを配置する。
床パネル同士の間隙は等分で5mm～100mm、壁際も隙間をとる。

⑥床パネルのレベル調整

- ・壁廻りの床パネルを先ず基準高に合わせ、部屋の短い方向にてボルト1列毎(床パネルの中央部のボルトを除く)に糸にてレベル調整していきます。パネル中央部のボルトは600mm以上の水準器にてレベルを合わせる

⑦捨張合板の施工

- ・ レベル調整を終えた床パネルにはすぐに捨張合板を施工して下さい。
捨張合板の固定は、スクリー釘 32 mmの場合 合板 3 尺×6 尺 1 枚に
対して 4 5 本(5 列×9 列)以上、32 mm皿ビスの場合 2 8 本(4 列×7 列)
以上とする。
- ・ 捨張合板と床パネル目地のかかり寸法は 150 mm以上として下さい。
- ・ 接着剤との併用は必要ありません。
- ・ 釘及びビス打ちは支持ナットに接触しないようにして下さい。床鳴りの
原因となります。
* 固定する際には配管に傷をつけないためにも捨張合板の表面に配管
位置を示す墨打ちをすることをお勧めします。

⑧ 床下地施工確認

- ・ 床下地施工後、部屋全体を歩いてみて、釘の打ち忘れ、床鳴り、床の
沈み込み、浮き上がり、段差などが無いかチェックして下さい。
* 下地完了後は重量物の仮置きはしないで下さい。

6. 施工検査表

検査内容	検査結果
レベルが出ているかを確認する。 (3/1000 mm以内)	
壁廻り、柱廻りとの取り合いを確認する。	
立ち上がり配管が、接触していないかを確認する。	
ボルトの調整忘れがないかを確認する。	
きわ根太やフリーフロアの接合部への固定が正しく施工されているかを確認する。	
フリーフロアの上を歩き床鳴りがないかを確認する。	